

日本植物病理学会会員各位

現在、新型コロナウイルス 2019-nCoV のパンデミックが人類の脅威になっています。会員の皆様におかれましても、様々なご心配、不便の中で感染拡大がどう止まるのか、注視されていると思われまます。

さて、今般、2019-nCoV の影響で、本年 3 月 19 日から鹿児島市において開催を予定していた、令和 2 年度日本植物病理学会大会の一同会しての開催を見送らざるを得なくなりました。これまで、綿密な準備をしてくださっていた、大会委員委員長はじめ、委員の皆様には、せっかくのご尽力いただいたにも関わらず大変残念に思っておられると思いますが、現会長の柘植尚志先生の他学会に先駆け中止のご英断を受け入れ、ご対応いただき、大変ありがとうございます。参加予定、発表予定だった会員は、皆、鹿児島でお目にかかれることを楽しみにしていましたし、将来、鹿児島で集まる機会があることを望んでいると思います。ご受賞の予定だった皆様にも、授賞式や受賞講演を執り行うことができず、大変残念に思います。ご受賞おめでとうございます。来年度の大会では是非受賞講演を拝聴できるよう、計画をしてみたいと思います。

9 年前にも東日本大震災とそれに伴う原発事故の影響で大会を中止いたしましたし

たが、その傷が完全に癒やされないうちの再度のこのような事態、人類の未来への警鐘のひとつのように感じられます。人類の叡智、すなわち科学で、私達が暮らす地球の持続的な発展を達成できるよう、科学者に与えられた試練なのでしよう。

さて、日本植物病理学会は、今回の総会において、一般社団法人としての第一歩を踏み出す宣言をすることになっていました。皆様には、これから、メールベースで法人化をご承認いただきたく思います。これまでの任意団体では財産や契約に関する権利義務関係が不明確でしたが、一般社団法人となることで、財産、契約、そして社会に対する学会の責任を明確化することになります。日本植物病理学会が4月1日に法人化した後は、会員の皆様それぞれが社員として学会にご協力いただくこととなります。その活動と成果で、日本植物病理学会が社会に貢献できることを目指していきます。

日本植物病理学会では、植物における病害を主な対象として114年にも亘り研究を進めてきました。この間、繰り返す病害のエピデミック、パンデミックによる食用植物生産への悪影響、海外からの侵入病害の脅威への対抗など、病原微生物やウイルスと日々戦って参りました。近年でも、カンキツグリーンニング細菌、トマト黄化葉巻ウイルス、バナナ新パナマ病菌、ジャガイモシロシストセンチュ

ウ、エンドウ萎凋病菌などに対応してきています。現在の 2019-nCoV のパンデミックも、疫学を知る私達には他人事ではなく、植物病害による次のパンデミックや社会的影響を抑制することが、植物病理学に関わる我々の使命だと思います。

このような社会状況の下、本年度、日本植物病理学会が準備をすすめている、アジア植物病理学会（ACPP2020）、5th Korea-Japan Joint Symposium on Plant Pathology などの活動の行方が気になるころではありますが、会員の皆様には、研究あるいは業務を推進いただき、2021 年 3 月には、三重県津市での活気あふれる大会でお目にかかれることを期待しています。最後に、皆様のご健康を祈念し、新会長講演に代えるメッセージとさせていただきます。

2020 年 3 月 19 日

日本植物病理学会 会長

一般社団法人日本植物病理学会 代表理事

有江 力